

放射化学会和文誌「放射化学」の歩み

日本放射化学会和文誌編集長 宮本ユタカ

日本放射化学会が1999年（平成11年）に設立してから、会誌として「放射化学ニュース」が年2回発行されてきました。2009年（平成21年）発行の第20号辺りまでは全会員に冊子として郵送されていましたが、会員の利便性を高めると同時に、学会財政の負担軽減の観点から、内容を電子化して学会ホームページ上に掲載してダウンロードできるように変わりました。その後、会員の情報交換の場として有効に機能している和文誌の位置づけを明確にし、優れた依頼総説記事などを積極的に発信する、等を意図するとして、2013年（平成25年）発行の第27号からは日本放射化学会の和文誌「放射化学」へと発展的に改名して、ニュース記事のほか、原著論文、総説、速報なども掲載することになり、電子ファイルでの配布を主として希望者には冊子体の郵送の形態を取りつつ今に至っています。

日本放射化学会が20周年を迎えると、和文誌「放射化学」は自動的にその倍数として第40号の発行を迎えることになりました。ここで改めて日本放射化学会のホームページに掲載されている20年間分の会誌内容を改めて眺めてみると、原

著論文や報告、コラムなどのデータが蓄積されたままの状態になっているのがお分かりかと思いますが、また、現在は学生を指導する立場にある先生方が、博士号を取得したばかりの初々しい学生の写真もこれらのデータの中から再発見できたりもします。懐古的に過去を思い出すのも一興かとは思いますが、様々な観点から放射化学の研究分野を発展させる上で、先人の研究成果や知恵、意見などには、自分の研究に対して何か参考になる部分やひらめきを得るきっかけが潜んでいるかもしれません。

和文誌を1号ずつを丹念にめぐり返して探すのでは効率的ではありませんので、40刊分の索引を作成しました。歴代会長の挨拶、原著論文（総説）、特集、解説、学会賞や奨励賞、若手優秀発表賞の研究紹介、学会会員からの投稿記事、学位論文要録、追悼記事に分類して一覧にしてあります。ページ数の都合から掲載できなかった会議の報告記事や学位論文のタイトルなど詳細情報を入れた索引は、和文誌のホームページに掲載してあります。そちらも情報を検索する際に役立てて頂ければ幸いです。

【会長挨拶】

中原弘道		第2号（2000年）
工藤博司	「ジャーナルを育て足場を固めよう」	第8号（2003年）
近藤健次郎	「学会の着実な発展に向けて」	第11号（2005年）
近藤健次郎	「第50回放射化学討論会・記念大会について」	第14号（2006年）
前田米蔵	「基礎研究に太陽光を」	第15号（2007年）
柴田誠一	「学会のさらなる飛躍を目指して」	第19号（2009年）
柴田誠一	「学会の次の10年へ向けて」	第21号（2010年）
永目論一郎	「世界化学年－キュリー夫人のノーベル賞受賞100年－を国際的な飛躍へのスタートに」	第23号（2011年）
海老原 充		第27号（2013年）
中西友子	「会長に就任して」	第31号（2015年）
中西友子	「会長に再任して」	第35号（2017年）
篠原 厚	「会員がメリットを感じる学会を目指して」	第38号（2018年）
篠原 厚	「日本放射化学会20周年を迎えるに当たって」	第40号（2019年）

【原著論文】【短報】【総説】

集積型鉄二価錯体の集積構造の多様性と構造変化、 スピントロニクス挙動の変化 (中島 覚)	第 27 号 (2013 年)
福島第一原子力発電所事故由来の放射性セシウムの 環境中での移行挙動とミクロスケールでの不均質性 (田中万也)	第 27 号 (2013 年)
福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質を含む土壌の付着による 植物葉からの放射性セシウム吸収について (田上恵子、内田滋夫)	第 28 号 (2013 年)
福島第一原子力発電所事故の影響を受けたソメイヨシノ (<i>Cerasus xyedoensis</i> (Matsum.) A. V. Vassil. 'Somei-yoshino') の当年枝伸長位置の根からの 距離と葉中の放射性セシウム濃度 (田上恵子、内田滋夫)	第 29 号 (2014 年)
ミュオン原子から放出されるミュオン特性 X 線を用いた 非破壊元素分析 (二宮和彦)	第 29 号 (2014 年)
福島原発事故に伴う飯館村の放射能汚染調査 (遠藤 暁、今中哲二、林 剛平、菅井益郎、小澤祥司、梶本 剛)	第 29 号 (2014 年)
$^{229}\text{Th}_m$ の検出に関する最近の研究 (菊永英寿)	第 30 号 (2014 年)
GARIS が拓く新元素の化学 (羽場宏光)	第 30 号 (2014 年)
簡易放射線計測器による東京 - 新青森間の新幹線車内における 空間線量率の経時変化 (田上恵子)	第 31 号 (2015 年)
簡易放射線計測器による東京 - 新潟間の新幹線車内における 空間線量率の経時変化 (田上恵子)	第 31 号 (2015 年)
国際核データベース (大塚直彦)	第 31 号 (2015 年)
β -NMR による物質科学研究の新展開 (三原基嗣)	第 32 号 (2015 年)
アイソトープ治療のためのアルファ放射体の製造 (鷲山幸信)	第 32 号 (2015 年)
福島県の一般廃棄物焼却施設で生じた焼却飛灰中放射性 セシウムの化学形態分析 (藤井健悟)	第 34 号 (2016 年)
原発事故における放射性核種の継続的摂取による 体内蓄積量の算出 (馬場 宏、高橋成人)	第 38 号 (2018 年)
低山地地形により傾斜した冬季雷雲からの制動ガンマ線の解析 (黒崎裕人)	第 39 号 (2019 年)
文献データを利用した魚以外の食用水生生物への ^{137}Cs 濃縮係数の導出 - 福島第一原発事故前後の比較 - (田上恵子)	第 40 号 (2019 年)

【特集】

特集 JCO 事故 ・ JCO 事故で被ばくした金中の ^{198}Au の測定 (小村和久) ・ JCO 臨界事故調査に加わって (三頭聡明) ・ JCO 臨界事故における熱中性子束とフルエンスの推定 (佐々木研一)	第 2 号 (2000 年)
特別記事 福島第一原子力発電所の事故に関連した取り組み 1. 福島第一原子力発電所事故への取り組み (永目諭一郎) 2. 放射能高汚染水からの無機吸着剤によるセシウムの選択的分離 (三村 均、佐藤修彰、桐島 陽) 3. 地球惑星科学連合と日本放射化学会の連携プロジェクト (篠原 厚、齊藤 敬) 4. 農産物の放射能汚染問題に関連した福島県への協力 (村松康行) 5. 福島県農業総合センター果樹研究所等での放射性物質対策試験 (大槻 勤) 6. 日本分析化学会・日本地球化学会・日本放射化学会 共同講演会「放射能・放射線を正しく理解する ～福島第一原子力発電所事故に関連して～」 (永目諭一郎)	第 24 号 (2011 年)
特別寄稿 福島第一原発事故と IAEA の事故評価尺度の不備 (吉原賢二)	

世界化学年を記念して 「放射化学の最前線 マリー・キュリーが目指した(であろう)テーマ」	第24号(2011年)
1. 新元素の合成と化学	(羽場宏光)
2. ラジオアイソトープの医学利用	(渡邊茂樹、石岡典子)
3. 放射化学を基礎とした核不拡散に関わる分析技術	(宮本ユタカ)
4. ラジオアイソトープ利用の最前線	(二ツ川章二)
5. 加速器質量分析とその考古学への応用-最近のトピックより	(今村峯雄)
6. ウラン電池からバナジウム固体塩電池(VSSB)へ	(山村朝雄、大田 卓)
福島問題	第25号(2011年)
1. 福島問題「福島第一原子力発電所タービン建屋たまり水中の ⁸⁹ Srおよび ⁹⁰ Srの分析」	(浅井志保、岡野正紀、亀尾 裕)
2. 福島除染問題「放射線グラフト重合合法によるセシウム除去用吸着繊維の開発」	(斎藤恭一)
3. 被爆問題「福島第一原子力発電所の爆発事故の影響」	(高瀬つぎ子)
4. 学会の取り組み「福島原発事故対策プロジェクト 進捗報告」	(高宮幸一)
特別寄稿「食品に対する安全基準についての一考察」	(馬場 宏)
福島問題	第26号(2012年)
1. 福島の果樹、この1年	(佐藤 守)
2. 原子力機構の環境修復の取り組みに参加して	(吉川英樹)
3. 環境放射線分布測定用ガンマカメラの開発	(田所孝広)
研究室紹介 - 2015 若手の会から -	第33号(2016年)
・2015 日本放射化学会年会・第59回放射化学討論会 若手の会	(小森有希子)
・広島大学放射線反応化学研究グループ	(金子政志)
・徳島大学大学院放射線理工学分野先端放射分析化学研究室	(武田晋作)

【解説】

放射化学に対する高レベル放射性廃棄物処分からの期待	(長崎晋也)	第2号(2000年)
生体試料の他元素同時分析	(大森佐與子)	第3号(2000年)
超重元素の発見	(森田浩介)	第3号(2000年)
核燃料サイクルにおけるアクチノイドの抽出分離	(館盛勝一)	第4号(2000年)
放射化学からのアプローチによるフラーレン研究	(末木啓介)	第4号(2000年)
レーザー分光法によるアクチノイドのスペシエーション	(木村貴海)	第5号(2001年)
Some Current Achievements of Radiochemistry in China (Zhifang Chai, Wenxin Li, Yuanfang Liu, Shangeng Luo, Zhi Qin, Xiangyun Wang, Yongjun Zhu)		第6号(2002年)
希土類化合物のメスバウアー測定	(高橋 正、王 軍虎、北澤隆史、竹田満州雄)	第7号(2002年)
マルチレーザー法と RIBF 計画における次世代マルチレーザー研究の展開	(羽場宏光、五十嵐香織、蛭沼利江子、榎本秀一)	第8号(2003年)
ポジトロニウム形成過程についての最近の理解	(伊藤泰男)	第10号(2004年)
加速器質量分析法(AMS)によるCl-36の測定	(関 李紀)	第11号(2005年)
地球環境のFP量推定における課題	(館盛勝一)	第11号(2005年)
物性・構造研究のためのガンマ線摂動角相関法	(大久保嘉高、横山明彦、佐藤 渉)	第12号(2005年)
^{108m} Agを用いる新しい原爆中性子評価	(小村和久)	第13号(2006年)
ITER トリチウムプラントに向けた日本原子力研究開発機構での研究開発	(山西敏彦)	第14号(2006年)

インビーム・メスバウアー分光法	(小林義男)	第15号(2007年)
アクチノイド化学事始	(三頭聰明)	第16号(2007年)
天然水中のラジウム同位体	(佐藤 純、齊藤 敬、中野(太田)朋子)	第17号(2008年)
オクロ現象研究の最近の話題から	(日高 洋)	第18号(2008年)
スピントロスオーバー錯体－学問的意義と機能性	(前田米蔵)	第19号(2009年)
イオン交換と科学的同位体効果	(藤井靖彦、野村雅夫)	第20号(2009年)
植物研究による放射線・アイソトープの活用	(中西友子)	第22号(2010年)
大強度パルス中性子を適用した中性子核反応測定装置 ANNRI	(原田秀郎、木村 敦、大島真澄)	第24号(2011年)
はやぶさ宇宙探査機によって小惑星イトカワから回収された 粒子の中性子放射化分析	(海老原 充)	第25号(2012年)
固/液及び液/液界面におけるアクチノイドの電気化学	(北辻章浩)	第25号(2012年)
従来よりも短い ¹⁴⁶ Sm半減期の測定結果と ¹⁴⁶ Sm- ¹⁴² Ndを用いた 太陽系年代に及ぼす影響	(木下哲一、中西 孝、横山明彦)	第26号(2012年)
陽子過剰原子核で観測された様式の核分裂	(西尾勝久)	第26号(2012年)
TiCl ₄ ルイス酸による金属内包フラレンの迅速分離法	(秋山和彦)	第26号(2012年)
表面電離法によるローレンシウムのイオン化エネルギー測定	(佐藤哲也)	第32号(2015年)
J-PARC/ANNRIにおける即発ガンマ線分析法開発	(藤 暢輔)	第33号(2016年)
113番新元素の合成	(森本幸司)	第33号(2016年)
113番元素の命名権、日本へ!	(工藤久昭)	第33号(2016年)
気体充填型反跳イオン分離装置 GARIS-II	(加治大哉)	第34号(2016年)
広島原爆炸裂の初期プロセスについての考察 －リトルボーイノートより－	(今中哲二)	第34号(2016年)
α 放射体 Ra-223 が前立腺がん骨転移治療薬として国内承認	(鷺山幸信)	第34号(2016年)
104番元素 Rf の抽出平衡の観測	(笠松良崇、横北卓也)	第35号(2017年)
福島第一原発の廃止措置－現状とその戦略－	(沼田 守)	第37号(2018年)
第8周期の新元素を求めて	(羽場宏光)	第40号(2019年)

【学会賞、木村賞受賞者による研究紹介】

平成13年度 ・佐野博敏 核壊変に伴う化学的後遺効果(ホットアトム効果)の 発光メスバウアー分光学的研究	第6号(2002年)
2003-2004年度 ・永目論一郎 ラザホージウム等の核化学研究における新展開	第11号(2005年)
2004-2005年度 ・竹田満洲雄 多くの核種のメスバウアー分光による無機化合物の構造と 結合状態に関する研究	第13号(2006年)
2005-2006年度 ・大槻 勤 フラレンに内包されたベリリウム-7の半減期短縮と電子状態	第15号(2007年)
2006-2007年度 ・中原弘道 低エネルギー核分裂における変形経路の解明に関する研究 ・小村和久 極低レベル放射能測定の実現と環境放射能研究への新展開	第17号(2008年) 第18号(2008年)
2007-2008年度 ・安部文敏 核プローブの応用とマルチレーザー法の創始 ・日高 洋 天然における核反応現象に基づく地球化学及び宇宙化学的研究	第19号(2009年) 第19号(2009年)
2008-2009年度	第21号(2010年)

・坂本 浩	中高エネルギー領域における光核反応機構の解明に関する研究	第 23 号 (2011 年)
2009 - 2010 年度		
・中西友子	放射線ならびにアイソトープを駆使した植物生理学の研究	第 29 号 (2014 年)
2013 年		
・木村貴海	時間分解蛍光分光法によるアクチノイドおよびランタノイドの 溶液化学に関する研究	第 33 号 (2016 年)
2015 年度		
・鄭 建	人工放射性核種の超高感度同位体質量分析法開発および 環境動態解析に関する研究	第 35 号 (2017 年)
2016 年度		
・山本政儀	極微量 α 放射性核種の測定法開発および地球化学研究への応用	

【奨励賞受賞者による研究紹介】

平成 12 年度		第 5 号 (2001 年)
・速水真也	メスバウアー分光法を用いた動的電子状態に関する研究	
・塚田和明	新アクチノイド核種の発見と中性子不足アクチノイド核種の 壊変特性に関する研究	
平成 13 年度		第 6 号 (2002 年)
・羽場宏光	中高エネルギー光核反応の放射化学的研究 - 核破砕ならびに核分裂反応の核反跳法による動力学的研究 -	
平成 14 年度		第 8 号 (2003 年)
・田上恵子	環境試料中の Tc-99 の分析ならびに環境挙動の解明に関する研究	
平成 15 年度		第 9 号 (2004 年)
・佐藤 渉	γ 線摂動角相関法のフラーレン物性研究への応用と新規測定法の開発	
2003 - 2004 年度		第 11 号 (2005 年)
・高橋嘉夫	吸着反応における希土類元素の分配パターンが示す新たな情報	
2004 - 2005 年度		第 13 号 (2006 年)
・桐島 陽	水溶液中における 4 価ウランイオンの発光現象の研究	
・加治大哉	ヘリウムガス中を運動する超重元素の平均平衡電荷に関する基礎研究 - 超重元素合成実験への寄与 -	
・松村 宏	中高エネルギー領域における軽核生成核反応の研究	
2005 - 2006 年度		第 15 号 (2007 年)
・北辻章浩	液々界面イオン移動反応の電気化学的研究とアクチノイド分離への応用	
・鈴木達也	3 級ピリジン樹脂を用いるランタノイドとアクチノイドの分離	
2007 - 2008 年度		第 17 号 (2008 年)
・小田寛貴	古文書・古筆切の放射性炭素年代測定	
・佐々木隆之	アクチノイドおよびランタニド水酸化物錯体の生成挙動に関する熱力学的研究	
2007 - 2008 年度		第 17 号 (2009 年)
・豊嶋厚史	シングルアトム分析手法を用いたラザホージウム、ノーベリウムの溶液化学的研究	
2008 - 2009 年度		第 21 号 (2010 年)
・池田篤史	放射光 X 線吸収分光法によるアクチノイドの溶液内化学種の解明	
・國分陽子	環境試料中の極微量核物質の同位体比分析に関する研究	
2009 - 2010 年度		第 23 号 (2011 年)
・大矢恭久	炭化系セラミックス材料における高エネルギーイオンの ホットアトム化学的過程に関する研究	

・吉村 崇	テクネチウム錯体の合成と性質に関する研究	
2011年度		第25号(2012年)
・坂口 綾	環境中のウラン同位体に関する研究	
2012年度		第26号(2012年)
・木下哲一	消滅核種サマリウム-146の研究-特に半減期測定について- 【解説記事】	
2016年度		第35号(2017年)
・笠松良崇	超重元素ラザホージウムの溶液化学研究 -共沈実験手法と抽出平衡観測手法の開発-	
・金子政志	メスバウアー分光パラメータと密度汎関数法を用いた d, f ブロック錯体の結合状態研究	
・二宮和彦	「負ミュオンを用いた非破壊三次元元素分析法の開発」	
2018年度		第39号(2019年)
・関本 俊	放射化分析法を用いた固体地球化学試料中のハロゲン及び微量元素の定量	

【若手優秀発表賞者による研究紹介】

2014 日本放射化学会年会		第31号(2015年)
・金子政志	密度汎関数法を用いたマイナーアクチノイドの 選択的分離に対する計算化学的アプローチ	
・佐藤志彦	福島第一原発北西部に広がる高線量地域の ^{110m}Ag : ^{137}Cs 比を用いた分類	
・重河優大	^{235m}U の脱励起過程の研究に向けた反跳核捕集装置の開発	
・森本佳祐	サロフェン型配位子をもつ八配位 U (V) および U (IV) 錯体の 安定構造の変化	
2015 日本放射化学会年会		第33号(2016年)
・佐藤志彦	福島第一原発事故で放出した放射性粒子の生成プロセス	
・小荒井一真	ウシの歯の Sr-90 と Cs-137 濃度を指標とした環境中から ウシへの取り込みの時間変化の解析	
・佐藤大輔	105 番元素 Db の化学実験のための Aliquat336 樹脂を用いた Nb, Ta のフッ化水素酸中からの固液抽出	
・亀澤明憲	MA / Ln 分離における mono-triazinyl-phenanthroline 系抽出剤の 合成とその性能評価	
・添盛晃久	東京湾と千葉県都市河川の底質における福島第一原発事故由来の 放射性セシウムの鉛直分布	
・佐野陽祐	陽電子消滅時刻運動量同時測定法による Ar ガス中での Ps 熱化過程	
2016 日本放射化学会年会		第35号(2017年)
・塩原良建ほか	ケイ酸塩鉱物中トリウムおよびラジウムの同位体の存在形態	
・吉田 剛	軽元素化合物へのミュオン捕獲によるミュオン原子形成過程の 理解に向けた研究	
・神田晃充ほか	樹脂担持有機スズ試薬を用いた ^{211}At 分離 / 標識の試み	
・白井香里ほか	Rf 同族元素 Zr, Hf の塩化物に対する等温ガスクロマトグラフィ	
・矢納慎也ほか	$^{70}\text{Zn}(d, n)^{67}\text{Cu}$ 反応による頒布用精製 ^{67}Cu の製造	
・鈴木聖人	インビーム・メスバウアー分光法を用いた ^{57}Fe 原子の化学状態の分析	
・中川真結ほか	メスバウアー分光法によるコンドライト隕石中の鉄含有鉱物組成の研究	
2017 日本放射化学会年会		第37号(2018年)
・庭瀬暁隆ほか	GARIS-II+MRTOF を用いた短寿命核精密質量分析	
・細谷青児ほか	加速器質量分析法を用いた Sr-90 測定の試み	

・小荒井一真ほか 環境からウシの歯への Sr-90、Cs-137 の移行機構	
・南部明弘ほか 鉄原子へのミュオン捕獲現象の化学状態による影響	
・白井香里ほか Zr, Hf 塩化物の等温クロマトグラフィにおける カラム通過挙動に対する分子数の影響	
・小森昌史ほか 東京湾底質中の鉄の化学状態を指標とした海水中の溶存酸素量の 推定方法に関する研究	
・重河優大ほか ^{233}U の α 線-電子コインシデンス測定による $^{229\text{m}}\text{Th}$ の 内部転換電子観測の試み	
2018 日本放射化学会年会	第 39 号 (2019 年)
・張 子見 アルファ線核医学治療に向けた At-211 標識アミノ酸誘導体の検討	
・庭瀬暁隆 MR TOF-MS 用 α -TOF 検出器の性能評価	
・五十嵐淳哉 福島県大熊町で発見された放射性 Cs を含む不溶性粒子の 破壊分析による微量元素定量	
・重河優大 阻止電場-磁気ボトル型電子分光装置の開発および U-235m の内部転換電子分光測定	
・大内和希 ウランとネプツニウムの還元に誘起される析出反応	

【歴史と教育】

レニウムとしてのニッポニウム-元素発見の屈折した道-	(吉原賢二)	第 2 号 (2000 年)
仁科芳雄博士とアイソトープ	(斎藤信房)	第 3 号 (2000 年)
「学部学生 RI 実習テキスト集」の編集・刊行にあたって	(森 厚文)	第 3 号 (2000 年)
阪上正信著 “温故知新” について	(橋本哲也)	第 3 号 (2000 年)
超ウラン元素物語 (I) -バークレーの独壇場-	(馬場 宏)	第 6 号 (2002 年)
超ウラン元素物語 (II) -米ソの先陣争い-	(馬場 宏)	第 7 号 (2002 年)
The American Chemical Society's Summer Schools in Nuclear and Radiochemistry	(Sue B. Clark)	第 7 号 (2002 年)
放射化学入門実験 青山学院大学理工学部アイソトープ研究室での一例 (斎藤裕子、木村 幹)		第 8 号 (2003 年)
ビキニ事件 50 周年 -静岡大学とのかかり合いを中心に-	(長谷川 隼彦)	第 10 号 (2004 年)
エネルギー基地「新天領」論 - -地域住民による環境放射能の自発的監視へ	(荒谷美智)	第 11 号 (2005 年)
黒田和夫 (Paul Kazuo Kuroda) 先生の若き日の自伝 “My Early Days at the Imperial University of Tokyo” について (坂本 浩)		第 13 号 (2006 年)
ネットワークによる原子力教育の新しい試み (長谷川 信、中西 孝、藤井靖彦、小高知宏)		第 17 号 (2008 年)
学士の質をどのように保証するか -信州大学教育学部での理科教員養成の取組-	(村松久和)	第 18 号 (2008 年)
大同大学授業開発センターの取り組みに関わって	(酒井陽一)	第 19 号 (2009 年)
よみがえる長岡原子模型	(稲村 卓)	第 31 号 (2015 年)
広い教育分野における $^{68}\text{Ge}/^{68}\text{Ga}$ ジェネレーターを用いる諸実験の活用 -ラジオアイソトープの新利用-	(野崎 正ほか)	第 35 号 (2017 年)

【コラム】【談話室】【トピックス】【ニュース】【温故知新】【留学報告】【談話室】

JCO 事故について	(廣瀬勝己)	第 3 号 (2000 年)
Choppin 先生からのメッセージ	(吉田善行)	第 5 号 (2001 年)
110 番元素の名前が決まる	(永目諭一郎)	第 9 号 (2004 年)
セベリア大学物理学部 (スペイン) における環境放射能研究について	(田上恵子)	第 10 号 (2004 年)

メスバウアー分光が見つけた火星の水	(竹田満洲雄)	第 10 号 (2004 年)
日本発の新元素 !? 113 番元素の発見	(羽場宏光、加治大哉)	第 11 号 (2005 年)
放射化学研究の最近の動向 - 世界と日本 -	(工藤博司)	第 12 号 (2005 年)
放射線障害防止法の改正の要点	(片田元己)	第 12 号 (2005 年)
重い核種の自発核分裂半減期について	(館盛勝一)	第 13 号 (2006 年)
京都大学原子炉実験所と韓国原子力研究所の 原子炉利用協力研究について	(高宮幸一)	第 13 号 (2006 年)
日本放射化学会への提言	(馬場 宏)	第 18 号 (2008 年)
義務教育における原子力・放射線教育	(中條 悟)	第 21 号 (2010 年)
ウランの溶液および固体化学実験プログラムの開発と グローバル人材育成の試み	(佐藤修彰、他)	第 23 号 (2011 年)
114 番元素ならびに 116 番元素が承認される	(永目諭一郎)	第 24 号 (2011 年)
IAEA Japan Proficiency Test	(大浦泰嗣)	第 26 号 (2012 年)
放射性同位体の生成とその利用から天然における核現象の解明へ	(柴田誠一)	第 27 号 (2013 年)
新学術領域研究 (研究領域提案型)「福島原発事故により放出された放射性 核種の環境動態に関する学際的研究」とその立ち上がり	(五十嵐康人)	第 27 号 (2013 年)
さまよえるプルトニウム	(篠永妙子)	第 27 号 (2013 年)
松竹梅の放射線を見る～イメージングプレートを使った解析～	(箕輪はるか)	第 27 号 (2013 年)
函館高専物質工学科における放射線等に関する学生アンケート調査	(鹿野弘二)	第 27 号 (2013 年)
福島第一原子力発電所事故後初期に茨城県東部沿岸域で測定された 複数の汚染気塊の考察	(鶴田治雄、荒井俊昭、司馬 薫、山田裕子、草間優子、中島映至)	第 28 号 (2013 年)
東京電力福島第一原子力発電所事故による農業影響に関する英文本	(田野井慶太郎)	第 28 号 (2013 年)
京都大学研究用原子炉 (KUR) の B-2 実験孔照射装置の紹介 (1)	(高宮幸一)	第 28 号 (2013 年)
第 50 回アイソトープ・放射線研究発表会パネル討論 2 (2013 年) 「加速器等を用いる新しい核プローブによる分析と応用」の報告(野村貴美)		第 28 号 (2013 年)
3次元ブロック核図表 - 同位体の理解のために	(小浦寛之)	第 30 号 (2014 年)
理事会より「学会の将来に関するアンケート」の結果について	(横山明彦)	第 30 号 (2014 年)
研究室紹介 - 2014 若手の会から -		第 31 号 (2015 年)
・2014 日本放射化学会年会・第 58 回放射化学討論会 若手の会	(大江一弘)	
・大阪大学放射化学研究室、同位体化学研究室	(横北卓也)	
・金沢大学放射化学研究室	(北山雄太)	
・首都大学東京同位体化学研究室、宇宙化学研究室	(只井智浩)	
・筑波大学放射化学研究室	(佐藤志彦)	
・新潟大学核化学研究室	(佐藤大輔)	
・日本原子力研究開発機構超重元素研究グループ	(金谷佑亮)	
原発事故環境汚染～福島第一原発事故の地球科学的側面～	(高橋賢臣)	第 31 号 (2015 年)
放射能と歩んだ 40 年 - 低レベル放射能実験施設 (LLRL) と共に -	(山本政儀)	第 32 号 (2015 年)
留学報告		第 32 号 (2015 年)
・ワシントン大学 (UW) での一年間	(渡辺茂樹)	
・ブリュッセル自由大学留学記	(日高義浩)	
帰還困難区域を訪れて	(堀まゆみ)	第 32 号 (2015 年)
中西友子 日本放射化学会現会長 (東京大学特任教授) の栄えある 2016 年 Hevesy 賞受賞を祝す	(中西 孝)	第 34 号 (2016 年)
科研費新学術領域研究「短寿命 RI 供給プラットフォーム」がスタート	(中野貴志)	第 34 号 (2016 年)

量子科学技術研究開発機構が発足	(橋本和幸)	第34号(2016年)
113, 115, 117, 118番元素の名称・元素記号が正式決定	(加治大哉)	第35号(2017年)
京都大学研究用原子炉 KUR の状況	(中島 健)	第36号(2017年)
核化学事始め	(工藤久昭)	第36号(2017年)
RCNP-MuSIC が本格運転を開始	(二宮和彦)	第37号(2018年)
単独では維持することが困難な分科会について		第37号(2018年)
大阪大学放射線科学基盤機構の発足	(豊嶋厚史、篠原 厚)	第38号(2018年)
原子炉の近況 (京都大学研究用原子炉 KUR)	(高宮幸一)	第38号(2018年)
東北大学電子光物理学研究センターの近況報告	(菊永英寿)	第38号(2018年)
ドイツ ヘルムホルツ研究所マインツ & スイス ポール・シェラー研究所滞在記	(佐藤哲也)	第38号(2018年)
JRR-3 の新規制基準適合確認への取り組み状況について	(松江秀明)	第39号(2019年)
IAEA サイバースドルフ分析所に滞在して	(富田涼平)	第40号(2019年)
関連学協会との連携強化に関する会員アンケートの調査結果について	(別所光太郎)	第40号(2019年)

【学位論文要録】

第2号(2000年)		
目黒義弘	(日本原子力研究所 先端基礎研究センター)	
柿内秀樹	(日本原子力研究所 環境化学研究部)	
可児祐子	((株)日立製作所電力・電機開発研究所)	
羽場宏光	(日本原子力研究所 先端基礎研究センター)	
趙 宇亮	(東京都立大学 理学部化学科)	
栄長泰明	(東京大学大学院 工学系研究科応用化学専攻)	
尾崎卓郎	(理化学研究所)	
佐藤兼章	((財)日本分析センター)	
宮本ユタカ	(日本原子力研究所 環境科学研究部)	
第3号(2000年)		
Mohammad Samadfam	(日本原子力研究所 環境科学研究部)	
小崎 完	(北海道大学大学院 光学研究科量子エネルギー工学専攻)	
加藤義春	(日本原子力研究所 先端基礎研究センター)	
松村 宏	(日本大学 文理学部化学科)	
殿内重政	(新潟県保健環境科学研究所)	
第4号(2001年)		
秋山和彦	(東京都立大学大学院 理学研究科)	
田中宏昌	(東北大学大学院 理学研究科)	
Sergei Yu. Tolmachev	(九州大学大学院 理学研究科)	
第6号(2002年)		
松永 武	(日本原子力研究所 環境科学研究部)	
駒 義和	(核燃料サイクル開発機構東海事業所 環境保全・研究開発センター)	
勝又啓一	(日本原子力研究所 物質科学研究部)	
村田祥全	(金沢大学自然計測応用研究センター 低レベル放射能実験施設)	
有阪 真	(日本原子力研究所 物質科学研究部)	
後藤真一	(新潟大学 理学部)	
王 軍虎	(物質・材料研究機構 エコマテリアル研究センター)	

第7号 (2002年)	北辻章浩 (日本原子力研究所 先端基礎研究センター)
第8号 (2003年)	井口一成 (株式会社ナイス)
第9号 (2004年)	桜木智史 (放射線医学総合研究所 放射線安全研究センター)
第10号 (2004年)	加治大哉 (理化学研究所 加速器基盤研究部) 阪間 稔 (徳島大学医学部保健学科 放射線技術科学専攻) 佐藤(金子)哲也 (日本原子力研究所 物質科学研究部)
第11号 (2005年)	豊嶋厚史 (大阪大学大学院 理学研究科)
第12号 (2005年)	柴 剣宇 (東京都立大学 化学専攻)
第13号 (2006年)	宮崎 淳 (東京理科大学 理学研究科化学専攻)
第14号 (2006年)	菊永英寿 (金沢大学 自然科学研究科物質構造科学専攻)
第15号 (2007年)	笠松良崇 (日本原子力研究開発機構)
第16号 (2007年)	阿部琢也 (東京大学大学院 工学系研究科原子力国際専攻) 及川真司 (財団法人 日本分析センター) 大塚良仁 (環境科学技術研究所 環境動態研究部) 木下哲一 (高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター) 濱 克宏 (日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門)
第17号 (2008年)	國分(齋藤)陽子 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門) 須郷由美 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門) 濱島靖典 (金沢大学 環日本海域環境研究センター) 松村達郎 (日本原子力研究開発機構) 山口芳香 (公立大学法人 大阪市立大学)
第18号 (2008年)	関本 俊 (京都大学 原子炉実験所) 永井幸太 (核物質管理センター 東海検査部分析課) 二宮和彦 (大阪大学大学院 理学研究科) 安池賀英子 (北陸大学 薬学部) 安田健一郎 (日本原子力研究開発機構)
第19号 (2009年)	石井康雄 (日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門)
第20号 (2009年)	迫田晃弘 (岡山大学大学院 保健学研究科) 宮下 直 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門)

吉河 朗 (日本原子力研究開発機構)
第23号 (2011年)
小林大志 (京都大学 工学研究科)
上杉正樹 (金沢大学大学院 自然科学研究科)
第24号 (2011年)
大江一弘 (日本原子力研究開発機構)
第30号 (2014年)
小森有希子 (理化学研究所 仁科加速器研究センター)
第32号 (2015年)
横北卓也 (日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社)
小松田沙也加 (一関工業高等専門学校 一般教科自然科学系)
第34号 (2016年)
佐藤志彦 (日本原子力研究開発機構 福島技術開発部門)
金子政志 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター)
第36号 (2017年)
吉田 剛 (高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター)
張 子見 (大阪大学大学院 理学研究科 特任研究員)
第38号 (2018年)
小木曾 了 (大同大学 非常勤講師)
第40号 (2019年)
重河優大 (大阪大学)
小荒井一真 (日本原子力研究開発機構)

【時過ぎて】

濱口博先生のご逝去を悼む (斎藤信房)	第3号 (2000年)
黒田和夫先生のご逝去を悼む (古川路明、坂本 浩)	第4号 (2000年)
故 阪上正信先生を偲ぶ (橋本哲夫、小村和久、佐伯正克、中西 孝)	第7号 (2002年)
故 八木益男先生を偲ぶ (長谷川罔彦、近藤健次郎、榎本和義、三頭聡明)	第12号 (2005年)
西 朋太先生の追悼セッションを終えて (篠原 厚)	第15号 (2007年)
立川圓造博士を偲んで (吉田善行)	第17号 (2008年)
斎藤信房先生を偲んで (富永 健)	第17号 (2008年)
久米三四郎さんを偲んで - 核化学事初め (古川路明)	第21号 (2010年)
小村和久金沢大学名誉教授を偲んで (山本政儀、坂本 浩)	第24号 (2011年)
ローランド先生を偲んで (富永 健)	第26号 (2012年)
Attila Vertes 先生を偲んで (Ernö Kuzmann 竹田満州雄先生よりご紹介)	第26号 (2012年)
Heino Nitsche 博士を偲んで (吉田善行)	第31号 (2015年)
Gregory Robert Choppin 先生 (1927 - 2015) (葉袋佳孝)	第33号 (2016年)
村松康行教授を偲んで (内田滋夫)	第34号 (2016年)
森川尚威先生を偲んで (野川憲夫)	第35号 (2017年)
森山裕丈先生を偲んで (佐々木隆之)	第35号 (2017年)
Physics and sake with Koh Sakamoto (坂本 浩先生と共にした物理と酒) (Michael Paul)	第38号 (2018年)

【放射化学討論会等 学会プログラム】

2002 年日本放射化学会年会・第 46 回放射化学討論会	第 6 号 (2002 年)
2003 年日本放射化学会年会・第 47 回放射化学討論会	第 8 号 (2003 年)
2004 年日本放射化学会年会・第 48 回放射化学討論会	第 10 号 (2004 年)
2005 年日本放射化学会年会・第 49 回放射化学討論会	第 12 号 (2005 年)
2006 年日本放射化学会年会・第 50 回放射化学討論会	第 14 号 (2006 年)
The 6th International Symposium on Advanced Science Research (ASR2006) -Frontiers of Nuclear and Radiochemistry	第 14 号 (2006 年)
2007 年日本放射化学会年会・第 51 回放射化学討論会	第 16 号 (2007 年)
2008 年日本放射化学会年会・第 52 回放射化学討論会	第 18 号 (2008 年)
2009 年日本放射化学会年会・第 53 回放射化学討論会	第 20 号 (2009 年)
2010 年日本放射化学会年会・第 54 回放射化学討論会	第 22 号 (2010 年)
2011 年日本放射化学会年会・第 55 回放射化学討論会	第 24 号 (2011 年)
2012 年日本放射化学会年会・第 56 回放射化学討論会	
APSORC 13(2013 年日本放射化学会年会・第 57 回放射化学討論会)	第 28 号 (2013 年)
2014 年日本放射化学会年会・第 58 回放射化学討論会	第 30 号 (2014 年)
2015 年日本放射化学会年会・第 59 回放射化学討論会	第 32 号 (2015 年)
2016 年日本放射化学会年会・第 60 回放射化学討論会	第 34 号 (2016 年)
2017 年日本放射化学会年会・第 61 回放射化学討論会	第 36 号 (2017 年)
2018 年日本放射化学会年会・第 62 回放射化学討論会	第 39 号 (2019 年)
日本放射化学会第 63 回討論会(2019)	第 40 号 (2019 年)

【会議報告】【研究集会だより】

第4号(2000年)

- ・ 2000年日本放射化学会年会／第44回放射化学討論会を終えて（酒井宏）
- ・ APSORC2001 準備状況（前田米藏）

第5号(2001年)

- ・ 2001 Asia-Pacific Symposium on Radiochemistry の報告（前田米藏）
- ・ 2002 日本放射化学会年会・第46回放射化学討論会（大西俊之）
- ・ 第38回理工学における同位元素・放射線研究発表会（山田康洋）
- ・ 国際分析科学会議2001（IUPAC ICAS 2001）における放射化学関連シンポジウム（榎本和義）
- ・ 材料化学における陽電子とポジトロニウムの利用入門研究会（伊藤泰男）
- ・ International Conference on the Applications of the Mössbauer Effect（ICAME01）（小林義男）
- ・ ACTINIDES-2001（小川 徹）
- ・ 2nd International Symposium on Advanced Science Research（ASR2001）- Advances in Heavy Element Research-（永目諭一郎）

第6号(2002年)

- ・ 第3回「環境放射能」研究会（沖 雄一）
- ・ 4th International Conference on Isotopes（4ICI）（柴田誠一）
- ・ 14th Radiochemical Conference（Radchem 2002）に参加して（横山明彦）
- ・ 第6回トリチウム科学技術国際会議（Tritium 2001）（奥野健二）

第7号(2002年)

- ・ 第41回核化学夏の学校の思い出（高宮幸一）
- ・ 第4回環境放射能・放射線夏の学校（白石久仁雄、天野 光、高田 純、山本政儀）
- ・ AMS-9（永井尚生）

第8号(2003年)

- ・ 第4回環境放射能研究会（百島則幸）
- ・ 京都大学原子炉実験所「放射線と原子核をプローブとした物性研究の新展開」専門研究会（末木啓介）
- ・ International Symposium on Bio-Trace Elements（天野良平）
- ・ 日本放射線安全管理学会・第1回学術大会（斎藤 直）
- ・ 生態圏核種移行国際シンポジウム（天野 光）
- ・ 第40回理工学における同位元素・放射線研究発表会（山田康洋）
- ・ 原研先端基礎研究会「超重元素の核物理・核化学」（西中一朗）
- ・ 第4回メスバウアー分光研究会シンポジウム（高橋 正）

第 9 号(2004 年)

- ・第 42 回核化学夏の学校 (松村 宏)
- ・第 5 回環境放射能・放射線夏の学校 (大塚良仁)
- ・International Conference on the Applications of the Mössbauer Effect (ICAME03) (久野章仁)
- ・Migration '03 : 9th International Conference on Chemistry and Migration Behavior of Actinides and Fission Products in the Geosphere (桐島 陽)
- ・環境の放射線防護に関する国際会議 International Conference on the Protection of the Environment from the Effects of Ionizing Radiation (天野 光)
- ・2nd International Conference on the Chemistry and Physics of the Transactinide Elements (TAN03)
- ・平成15年度京都大学原子炉実験所専門研究会 放射線と原子核をプローブとした物性研究の新展開 (小林義男)

第 10 号(2004 年)

- ・第 5 回「環境放射能」研究会 (宮本ユタカ)
- ・第 41 回 理工学における同位元素・放射線研究発表会 (岡田往子)
- ・第 11 回 国際放射線防護学会 (田上恵子)
- ・第6回 環境放射能・放射線夏の学校 (福田紋子)

第 11 号(2005 年)

- ・International Symposium on the Industrial Applications of the Mossbauer Effect (ISIAME2004) (山田康洋)
- ・Eötvös Workshops and Conferences in Science 2004 (EWS04)
— Mössbauer 分光法の化学への応用— (野村貴美)
- ・第 6 回核・放射化学国際会議(Sixth International Conference on Nuclear and Radiochemistry, NRC6) (松村 宏)
- ・XIII International Conference on Hyperfine Interactions & XVII International Symposium on Nuclear Quadrupole Interactions (佐藤 渉)
- ・平成 16 年度京都大学原子炉実験所専門研究会
「放射線と原子核をプローブとした物性研究の新展開」 (中島 覚)
- ・第 4 回先端基礎研究国際シンポジウム
— 重元素マイクロバイオロジー研究の進歩— (大貫敏彦)
- ・第43回核化学夏の学校 (鷺山幸信)

第 12 号(2005 年)

- ・第 6 回環境放射能研究会 (杉原真司)
- ・2005 米国放射性廃棄物処理シンポジウム (田上恵子)
- ・第 8 回微量元素の生物地球化学に関する国際会議 (内田滋夫)
- ・First Biennial Asia-Pacific Winter Conference on Plasma Spectrochemistry (Sergei Tolmachev)

- ・テクネチウムに関する国際シンポジウム（関根 勉）
- ・第42回 アイソトープ・放射線研究発表会（山田康洋）
- ・第10回微量金属のスペシエーション分析方法論に係るワークショップ
（The 10th Workshop on Progress in Analytical Methodologies in Trace Metal Speciation）
（臼田重和）

第13号(2006年)

- ・第7回環境放射能・放射線夏の学校（日比野啓一）
- ・International Conference on the Applications of the Mössbauer Effect (ICAME05)（小林義男）
- ・APSORC2005（百島則幸）
- ・チベットへのAPSORCポストツアー（安田健一郎）
- ・シルクロードの旅（APSORCポストツアー）（岸川俊明）
- ・3rd EMRAS合同会議（田上恵子）
- ・第2回環境放射能国際会議 —ニース学会—（浜島靖典）
- ・平成17年度京都大学原子炉実験所専門研究会
「原子核プローブ生成とそれを用いた物性研究」（久保謙哉）
- ・平成17年度京都大学原子炉実験所専門研究会
「核化学・核物理の新領域としての重元素科学」（篠原 厚）
- ・北投石発見百周年記念温泉国際会議
International Conference on Centennial of Discovering Hokutolite and Hot Springs（百島則幸）

第14号(2006年)

- ・第44回核化学夏の学校（大浦泰嗣）
- ・2005環太平洋国際化学会議シンポジウム PACIFICHEM2005
（前田米藏、工藤久昭、永目雄一郎、臼田重和）
- ・第15回放射化学国際会議（15th Radiochemical Conference）（三頭聰明）
- ・International Conference on Application of Radiotracers in Chemical, Environmental and Biological Sciences（ARCEBS06）（榎本秀一）
- ・第7回環境放射能研究会（國分陽子）

第15号(2007年)

- ・第43回アイソトープ・放射線研究発表会（鈴木章悟）
- ・第8回環境放射能・放射線夏の学校（関本 俊）
- ・第45回核化学夏の学校（横山明彦）
- ・平成18年度京都大学原子炉実験所専門研究会
「原子核プローブ生成とそれを用いた物性研究II」（佐藤 渉）

第16号(2007年)

- ・第8回環境放射能研究会（森田貴己）

第17号(2008年)

- ・第44回アイソトープ・放射線研究発表会（石川陽一）
- ・第46回核化学夏の学校（関本 俊）
- ・第12回放射化分析の最近の動向に関する国際会議（MTAA-12）（海老原充）
- ・3rd International Conference on the Chemistry and Physics of the Transactinide Elements（TAN07）（豊嶋厚史）
- ・International Conference on the Applications of the Mössbauer Effect 2007（ICAME2007）（久富木志郎）
- ・平成19年度京都大学原子炉実験所専門研究会「原子核プローブ生成とそれを用いた物性研究III」（秋山和彦）

第18号(2008年)

- ・第9回環境放射能研究会（阿部琢也）
- ・放射生態学と環境放射能に関する国際会議
International Conference on Radioecology and Environmental Radioactivity（吉田 聡）

第19号(2009年)

- ・第47回核化学夏の学校（後藤真一）
- ・International Workshop on Materials & Life Science using Nuclear Probes from High-Energy Accelerators（Sakura Workshop）（久保謙哉、小林義男）
- ・Second International Nuclear Chemistry Congress（2nd-INCC）に参加して（秋山和彦）
- ・11th International Conference on Muon Spin Rotation, Relaxation, and Resonance（ μ SR 2008）（久保謙哉、小林義男）
- ・6th International Symposium on Technetium and Rhenium – Science and Utilization–（IST2008）（関根 勉）
- ・7th International Conference on Nuclear and Radiochemistry（NRC7）に参加して（横山明彦）
- ・The 11th International Conference on Accelerator Mass Spectrometry（AMS11）（上野弘貴）
- ・12th International Congress of the International Radiation Protection Association（IRPA12）（緒方良至）
- ・平成20年度京都大学原子炉実験所専門研究会「短寿命核および放射線を用いた物性研究(I)」（北澤孝史）

第20号(2009年)

- ・Eighth International Conference on Methods and Applications of Radioanalytical Chemistry –MARC VIIIに参加して（福島美智子）
- ・第10回環境放射能研究会（木下哲一）

第21号(2010年)

- ・第48回核化学夏の学校（羽場宏光）
- ・APSORC2009雑感（海老原 充）
- ・Migration 2009：第12回 地圏におけるアクチノイド元素と核分裂生成物の化学および移行挙動に関する国際会議
（12th International Conference on the Chemistry and Migration Behavior of Actinides and Fission Products in the Geosphere）（齊藤拓巳）
- ・International Conference on the Applications of the Mossbauer Effect（ICAME 2009）
（山田康洋）
- ・ISORD-5 に参加して（関本 俊）

第22号(2010年)

- ・第11回環境放射能研究会（上杉正樹）
- ・第1回シンポジウム「RI国内製造に向けての開発研究」（初川雄一）

第23号(2011年)

- ・平成22年度 第49 回核化学（佐藤哲也）
- ・平成22年度 環境放射能・放射線（長尾誠也）
- ・Second International Conference on Application of Radiotracers in Chemical, Environmental and Biological Sciences（ARCEBS10）に参加しての雑感（高宮幸一）
- ・第9回トリチウム科学技術に関する国際会議（TRITIUM2010）（柿内秀樹）
- ・国際会議Nuclear Analytical Chemistry -NAC-IV の報告（福島美智子）
- ・2010 International Chemical Congress of Pacific Basin Societies（PacifiChem2010）
- ・Advances in the Chemistry of Targeted Radionuclide Therapyセッションに参加して（渡辺 智）
- ・環境とアクチノイドの報告（吉田善行）
- ・Biomakers: PET/SPECT Imaging（渡辺茂樹）
- ・Spectroscopic, Radioanalytical and Nuclear Methods for Security Applications（江坂文孝）
- ・Nanoscale Characterization of Functional Materials by Nuclear Probes（野村貴美）
- ・Advances in Nuclear Chemistry of Transactinide Elements（永目諭一郎）

第24号(2011年)

- ・MTAA-13（大浦泰嗣）
- ・ISORD-6 に参加して（関本 俊）
- ・第12回「環境放射能」研究会（別所光太郎）

第25号(2012年)

- ・第65回 山田コンファレンス・メスバウアー効果の応用に関する国際会議ICAME 2011の

概要報告（野村貴美）

- 3rd INCCに参加して（宮本ユタカ）
- 4th International Conference on the Chemistry and Physics of the Transactinide Elements (TAN 11) 会議報告（笠松良崇）
- GLOBAL 2011 - Toward and Over the Fukushima Daiichi Accident -（深澤哲生）
- The 10th International Conference on Nuclear Analytical Methods in the Life Sciences (NAMLS-10) 参加報告（古田悦子）
- 2011 日本放射化学会年会・第55回放射化学討論会の報告（村松久和）
- KUR 専門研究会「不安定原子核の理工学と物性応用研究」報告（久富木志郎）
- 2011年度 京都大学原子炉実験所 ワークショップ「KUR の利用と新中性子源の検討」
専門研究会「有用放射性トレーサーの開発と利用」（後藤真一）
- 第13回「環境放射能」研究会（長田直之）

第26号(2012年)

- 第51回 核化学夏の学校（箕輪はるか）
- ICRS-12 に参加して（関本 俊）
- IRPA-13 に参加して（関本 俊）
- MARC-IX に参加して（大槻 勤）
- NRC-8 に参加して（二宮和彦）

第27号(2013年)

- 2012年 日本放射化学会年会・第56 回放射化学討論会（後藤真一）
- 京都大学原子炉実験所「有用放射性トレーサーの開発と利用」専門研究会報告（高宮幸一）
- 京大炉専門研究会「放射化分析を用いた微量元素分析の現状」について（関本 俊）
- 第14回「環境放射能」研究会（山形武靖）
- ND2013 に参加して（関本 俊）

第28号(2013年)

- 第52回核化学夏の学校（大江一弘）

第29号(2014年)

- アジア太平洋地域放射化学国際会議（APSORC13）報告について（山本政儀、他）
- 環境放射能・放射線夏の学校2013（藤原慶子）
- Third International Conference on Application of Radiotracers and Energetic Beams in Sciences (ARCEBS-14)（羽場宏光）
- NAC-V への参加報告（高宮幸一）
- 第15 回「環境放射能」研究会（佐藤志彦）

第30号(2014年)

- 17th Radiochemical Conference (RadChem2014) (島田亜佐子)
- 2nd Conference on "Advances in Radioactive Isotope Science" (ARIS2014) (佐藤哲也)
- 第3回環境放射能除染研究発表会

第31号(2015年)

- 第53 回核化学夏の学校 (大浦泰嗣)
- 2014 日本放射化学会年会・第58 回放射化学討論会 始末記 (実行委員)
- 第9 回高崎量子応用研究シンポジウム (喜多村茜)
- 新規イノベーションのためのシンポジウム「大阪大学 医・理・核物連携事業」
(篠原 厚)
- The Thirteenth International Conference on Accelerator Mass Spectrometry (AMS13)
(末木啓介)
- 第4 回INCC (International Nuclear Chemist Chemistry Congress) とサンパウロ大学訪問
(初川雄一)
- The Fourth Joint Meeting of the Nuclear Physics Divisions of the American Physical Society and The
Physical Society of Japan (Hawaii 2014) (笠松良崇)
- Micro-Mini & Nano Dosimetry (MMND-2014) and International Prostate Cancer Treatment
(IPCT-2014) Workshop (MMND-IPCT Conference 2014) (阪間 稔)

第32号(2015年)

- 第16回環境放射能研究会 (北川潤一)
- 10th International Conference on Methods and Applications of Radioanalytical Chemistry
(MARC X) (小豆川勝見)
- 15th International Workshop on Targetry and Target Chemistry (WTTC-15) に参加して
(渡辺茂樹)
- 5th International Conference on the Chemistry and Physics of the Transactinide Elements
(TAN 15) (浅井雅人)
- 大強度電子ビームとその応用利用 (東北大学電子光理学研究センター研究会)
(菊永英寿・柏木 茂)
- 第4回京都大学原子炉実験所原子力安全基盤科学研究シンポジウム
(京都大学原子炉実験所)
- 9th Symposium on Targeted Alpha Therapy (9th TAT) (鷺山幸信)
- 第52回アイソトープ・放射線研究発表会 (矢納慎也)

第33号(2016年)

- ・原子力総合シンポジウム2015 開催報告 (松岡 猛)
- ・第4回環境放射能除染研究発表会・国際シンポジウム (森田昌敏)
- ・第54回核化学夏の学校 (横山明彦)
- ・2015放射化学学会年会・第59回放射化学討論会 実施報告 (関根 勉)
- ・大阪大学 医・理・核物連携「新規医療イノベーションのためのシンポジウム2015」
(篠原 厚)
- ・第10回高崎量子応用研究シンポジウムの報告 (山崎翔太)
- ・第2回核医学治療国際シンポジウム (鷺山幸信)
- ・Pacifichem2015 シンポジウム
- ・「The Expanding Periodic Table: New Discoveries & Chemistry of the Heaviest Elements」
(永目諭一郎)
- ・「Isotope Production-Providing Important Materials for Research and Applications」 (初川雄一)
- ・「Fukushima and Radiological Contaminated Environments World-wide: The Important Role of
Environmental Chemistry and Radiochemistry in Remediation and Restoration」 (佐々木隆之)
- ・「Nuclear Probes in Nanoscale Characterization」 (山田康洋)
- ・Experimental and Theoretical Actinide Chemistry: From Fundamental Systems to Practical
Applications (矢板 毅)
- ・「Radioactive Contaminants and Waste Management in the Environment」 (大貫敏彦)
- ・「Science with Beams of Radioactive Isotopes」 (羽場宏光)

第34号(2016年)

- ・放射性同位元素(RI)製造計画と多分野におけるRI利用
(東北大学電子光理学研究センター研究会) (菊永英寿)
- ・第17回「環境放射能」研究会 (別所光太郎)
- ・第1回 RANC(International Conference on Radioanalytical and Nuclear Chemistry) (中西友子)
- ・Nobel Symposium NS160“Chemistry and Physics of Heavy and Superheavy Elements” (佐藤哲也)

第35号(2017年)

- ・核化学夏の学校(阪間 稔)
- ・9th International Conference on Nuclear and Radiochemistry(NRC 9)(小森有希子)
- ・2016 日本放射化学学会年会・第 60 回放射化学討論会 実施報告(工藤久昭)
- ・2016 日本放射化学学会年会・第 60 回放射化学討論会 若手の会(佐藤大輔)
- ・大阪大学 医・理・核物連携「新規医療イノベーションのためのシンポジウム 2016」
(篠原 厚)
- ・京都大学原子炉実験所専門研究会
「京大炉(KUR)を用いた放射化分析の成果と今後の展望-2-」 (木下哲一)

第36号(2017年)

- ・第97春季化学会年会 Asian International Symposium- Inorganic Chemistry and Radiochemistry (豊嶋厚史)
- ・第18回「環境放射能」研究会(坂口 綾)
- ・IAEA 協力研究プロジェクト(CRP) 「Testing and Improving the International Reactor Dosimetry and Fusion File(IRDF)」に関する第3回研究調整会議

第37号(2018年)

- ・核化学夏の学校(高宮幸一)
- ・5th International Nuclear Chemistry Congress(5th-INCC・スウェーデン)に参加して(秋山和彦)
- ・APSORC17に参加して(箕輪はるか)
- ・SHE2017(加治大哉)
- ・9th Workshop on the Chemistry of Heaviest Elements (CHE9)(横北卓也)
- ・2017日本放射化学会年会・第61回放射化学討論会 実施報告(末木啓介)
- ・京都大学原子炉実験所「福島原発事故で放出された放射性物質の多面的分析」専門研究会 (高宮幸一)

第38号(2018年)

- ・第19回「環境放射能」研究会(吉田 剛)
- ・「第12回核融合エネルギー連合講演会」開催報告 (第12回核融合エネルギー連合講演会事務局)
- ・Eleventh International Conference on Methods and Applications of Radioanalytical Chemistry (MARC XI) (鈴木達也)
- ・RadChem2018 会議報告(島田亜佐子)

第39号(2019年)

- ・2018日本放射化学会・第62回放射化学討論会実施報告(沖 雄一)
- ・核化学夏の学校(後藤真一)

第40号(2019年)

- ・第20回「環境放射能」研究会 (小荒井 一真)
- ・RANC2019参加報告 (高宮 幸一)

【学位論文要録】**第 2 号(2000 年)**

目黒義弘（日本原子力研究所 先端基礎研究センター）

solute-Solvent Interaction in Partition of Actinide Ions between Two Liquid Phases

柿内秀樹（日本原子力研究所 環境化学研究部）

Tritium Distribution, Cycling, and Transformation in the Environment

可児祐子（(株) 日立製作所 電力・電機開発研究所）

The Structure of Nitridotechnetium (V) Amine Oxime Complexes: Electron Donation of Nitrido Ligand and Intramolecular Hydrogen Bond

（ニトリドテクテネチウム(V)アミンオキシム錯体の構造：ニトリド配位子の電子供与性と分子内水素結合）

羽場宏光（日本原子力研究所 先端基礎研究センター）

Radiochemical studies of photonuclear reactions at intermediate energies – Recoil studies of photospallation and photofission –

趙 宇亮 Y. L. Zhao（東京都立大学 理学部化学科）

Systematic Study of Bimodal Character of Nuclear Fission in the Actinide

栄長泰明（東京大学大学院工学系研究科応用化学専攻）

Molecule-based Photo-magnets: Characterization by ^{57}Fe Mössbauer Spectroscopy and Design of New Composite Materials

（光分子性磁性材料： ^{57}Fe メスバウアー分光法による評価と新規複合材料の設計）

尾崎卓郎（理化学研究所）

Study on the Uptake Mechanisms and Functions of Rare Earth Elements in Plant

（希土類元素の植物による取り込みの機構および植物体内での挙動と機能に関する研究）

佐藤兼章（(財) 日本分析センター）

Studies on Determination of a Trace Quantity of Alpha Nuclides in Environmental Samples Using Liquid Scintillation Counting and Fission Track Methods

（液体シンチレーション測定法とフィッショントラック法を用いた環境試料中微量 α 放射体の定量法に関する研究）

宮本ユタカ（日本原子力研究所 環境科学研究部）

Quantitative Assessments of Interfering Nuclear Reactions in Neutron and Photon Activation Analyses and their Applications to Simultaneous Multi-element Analysis of Rock and Plant Samples

（中性子および光量子放射化分析における妨害核反応の定量的評価と岩石試料及び植物試料の他元素同時分析への応用）

第 3 号(2000 年)

Complexation of Radionuclides with Humic Acid and Effects of Humic Acid on Sorption of Radionuclides

Mohammad Samadfam（日本原子力研究所 環境科学研究部）

小崎 完（北海道大学大学院 工学研究科）

<p>Fundamental study on corrosion behavior of overpack materials and migration behavior of radionuclides in buffer materials in geological disposal of high-level radioactive waste (高レベル放射性廃棄物地層処分における緩衝材中のオーバーパックの腐食および核種移行挙動に関する基礎的研究)</p>
<p>加藤義春 (日本原子力研究所 先端基礎研究センター) Study on solid-liquid equilibrium and complex formation of actinides on the basis of speciation (状態分析に基づくアクチノイドの固-液平衡と錯形成の研究)</p>
<p>松村 宏 (日本大学 文理学部化学科) Target-dependence of light fragment production in photonuclear reactions at intermediate energies (中高エネルギー光核反応における軽核生成の標的核依存性)</p>
<p>殿内重政 (新潟県保健環境科学研究所) Studies on Natural Radiation Levels in Niigata Prefecture</p>
<p>第4号(2001年)</p>
<p>秋山和彦 (東京都立大学大学院 理学研究科) Production and Characterization of Metallofullerenes of 4f, 5f Elements, and Group IV Element of Hf Studied by Radiochemical Method (放射化学的手法を用いた 4f, 5f、第4属元素内包金属フラーレンの生成及びその性質に関する研究)</p>
<p>田中宏昌 (東北大学大学院 理学研究科) The Structure and Bonding of Lithium-Rich $\text{Li}_n(\text{OH})_{n-1}$ ($n=2-5$) Clusters</p>
<p>Sergei Yu. Tolmachyov (九州大学大学院 理学研究科) The Behavior of Po-210 in Coastal Seawater and Maritime Aerosols at Kyushu Island, Japan (九州地方における海岸水と海上のエアロゾル中の Po-210 の挙動)</p>
<p>第6号(2002年)</p>
<p>松永 武 (日本原子力研究所 環境科学研究部) A study on the transport and speciation of radionuclides in fluvial environments (河川における放射性核種の以降と存在形態に関する研究)</p>
<p>駒 義和 (核燃料サイクル開発機構 東海事業所) Separation and recovery of trivalent actinides for aqueous spent nuclear fuel reprocessing (湿式核燃料再処理工程における三価アクチノイドの分離回収)</p>
<p>勝又啓一 (日本原子力研究所 物質科学研究部) Reactions of laser-evaporated iron atoms (レーザー蒸発した鉄原子の反応に関する研究-低温マトリックス単離法による分光測定-)</p>
<p>村田祥全 (金沢大学自然計測応用研究センター 低レベル放射能実験施設) Estimation of neutron fluence at Tokai-mura criticality accident by using induced radionuclides in soils collected from the JCO campus (JCO 敷地内土壌中の誘導放射性核種による東海村臨界事故中性子フルエンスの評価)</p>
<p>有阪 真 (日本原子力研究所 物質科学研究部)</p>

Study on coordination states of trivalent ions of f-block elements in water/alcohol mixed solutions 後藤真一（新潟大学理学部）
Studies on the Mass Splitting Process in Low-Energy Fission of Actinides （アクチノイドの低エネルギー核分裂における質量分割過程に関する研究）
王 軍虎（物質・材料研究機構 エコマテリアル研究センター） Mössbauer Spectroscopic Studies on the Gadolinium, Erbium and Neptunium Compounds （メスバウアー分光法によるガドリニウム、エルビウムおよびネプツニウム化合物の研究）
第 7 号(2002 年)
北辻章浩（日本原子力研究所 先端基礎研究センター） The Electrochemical Study on Ion Transfer Reactions of Actinide Ions at Interface of Aqueous and Organic Solutions （アクチノイドイオンの水相-有機相界面移動反応の電気化学的研究）
第 8 号(2003 年)
井口一成（株式会社ナイス） Radiochemical Study on Recombination Reactions of Hydrogen and Tritium Atoms in Normal-Fluid and Superfluid Helium （常流動-超流動液体ヘリウム中における水素原子-トリチウム原子の再結合反応についての放射化学的研究）
第 9 号(2004 年)
桜木智史（放射線医学総合研究所 放射線安全研究センター） Sorption of Am(III), Cm(III), and Eu(III) on Kaolinite and Hematite in the Presence of Humic Acid （フミン酸存在下でのAm(III)、Cm(III)およびEu(III)のカオリナイトとヘマタイトへの吸着に関する研究）
第 10 号(2004 年)
加治大哉（理化学研究所 加速器基盤研究部） Equilibrium charge of heavy recoil atom in helium gas - The way to a new element discovery - （ヘリウムガス中の重い反跳原子の平衡電荷 - 新元素発見への道 -）
阪間 稔（徳島大学医学部 保健学科） Alpha-decay Properties of Neutron-deficient Americium Isotopes （中性子不足アメリシウム同位体のアルファ壊変特性）
佐藤（金子）哲也（日本原子力研究所 物質科学研究部） Studies on the Isothermal Chromatography of Rutherfordium and its Homologues, Zirconium and Hafnium （ラザホージウムおよびその同族元素（ジルコニウム、ハフニウム）の等温クロマトグラフに関する研究）
第 11 号(2005 年)
豊嶋厚史（大阪大学大学院理学研究科） Fluoride Complex Formation of Transactinide Element, Rutherfordium, ¹⁰⁴ Rf

(超アクチノイド元素ラザホージウム (104Rf) のフッ化物陰イオン錯体の形成)
第 12 号(2005 年)
Juhasz Gergely Miklos (九州大学理学府凝縮系科学専攻) Study on the Role of Intermolecular Interactions in Spin-Crossover Compounds (スピנקロスオーバー化合物における分子間相互作用の役割に関する研究)
柴 剣宇 (東京都立大学 化学専攻) A study on the abundance of ^{247}Cm in chondritic meteorites (コンドライト隕石中における ^{247}Cm の存在度に関する研究)
第 13 号(2006 年)
宮崎 淳 (東京理科大学 理学研究科) 低温マトリックス単離したシクロペンタジエニル希土類 (III) 錯体の研究
第 14 号(2006 年)
菊永英寿 (金沢大学 自然科学研究科) Search for an Isomer State of ^{229}Th with Extremely Low Energy using Alpha-Spectrometry (α 線スペクトロメトリーを用いた ^{229}Th の極低エネルギー核異性体の探索)
第 15 号(2007 年)
笠松 良崇 (日本原子力研究開発機構) Decay Property of a Low-Lying Isomer of Thorium-229
第 16 号(2007 年)
阿部琢也 (東京大学大学院工学系研究科原子力国際専攻) 極低バックグラウンド γ 線スペクトロメトリーによる大気中放射性核種の高解像度測定 (High Resolution Measurement of Airborne Radionuclides by Using Extremely Low Background Gamma-Ray Spectrometry)
及川真司 (財団法人 日本分析センター) Development of Low Level Plutonium Measurement by ICP Mass Spectrometry and Its Application to Marine Environment – Pu Isotopes and Heavy Metal Elements in Surume Squid – (ICP質量分析計による極微量Pu同位体測定法の開発と海洋環境試料への応用 – 海産生物試料中のPu同位体および重金属元素 –)
大塚良仁 (環境科学技術研究所 環境動態研究部) Geochemical Studies on Material Cycles in a Lake Environment-Material Balances, Residence Times and Speciation of Naturally Occurring Radionuclides ^{210}Pb and ^{210}Po in Lake Biwa (湖沼環境における物質循環に関する地球化学的研究 – 琵琶湖における天然放射性核種 ^{210}Pb と ^{210}Po の物質収支、滞留時間および存在形態)
木下哲一 (高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター) Production of the Samarium-146 Isotope and Determination on its Half-Life
濱 克宏 (日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門) 深部地下水の地球化学特性に関する研究 – 調査手法の構築と調査への適用 – (Hydrogeochemical Study of Deep Groundwater -Methodology Development for the Hydrochemical

Characterization of Deep Groundwater and Its Application to the Field Investigations-)
第17号(2008年)
<p>國分（齋藤）陽子（日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門） Temporal and spatial distribution of plutonium released from Nagasaki atomic bomb （長崎原爆により放出されたプルトニウムの時間的及び空間的分布）</p>
<p>須郷 由美（日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門） Radiolysis Studies of an Efficient Extractant, N,N,N',N'-Tetraoctyldiglycolamide, for the Separation of Actinide Ions （アクチノイドイオンの分離に有用な抽出剤 N,N,N',N'-テトラオクチルジグリコールアミドの放射線分解に関する研究）</p>
<p>濱島 靖典（金沢大学 環日本海域環境研究センター） 液体および固体中の環境中性子深度分布及びエネルギー分布</p>
<p>松村 達郎（日本原子力研究開発機構） Separation of trivalent actinoids from lanthanoids by derivatives of N,N,N',N'-tetrakis (2-pyridylmethyl) ethylenediamine (TPEN) （N,N,N',N'-tetrakis (2-pyridylmethyl) ethylenediamine (TPEN) 誘導体による3価アクチノイドとランタノイドの分離に関する研究）</p>
<p>山口芳香（公立大学法人大阪市立大学） 大気環境動態のトレーサーとしての²¹⁰Po, ²¹⁰Pb及び⁷Beの高解像度観測 （High resolution measurements of airborne tracers ²¹⁰Po, ²¹⁰Pb, and ⁷Be on environmental dynamics in the atmosphere）</p>
第18号(2008年)
<p>関本 俊（京都大学 原子炉実験所） 地球外起源物質の化学組成と生成機構に関する研究 （Study on the chemical compositions and the formation mechanism of extraterrestrial material）</p>
<p>永井幸太（核物質管理センター 東海検査部分析課） 放射性鉍物と花崗岩から溶出するウラン・トリウム・ラジウムの同位体の放射能比</p>
<p>二宮和彦（大阪大学大学院 理学研究科） Atomic Processes after Formation of Pionic and Muonic Atoms （パイ中間子およびミュオン原子形成後の原子過程）</p>
<p>安池賀英子（北陸大学 薬学部） 樹木年輪及び大気CO₂の¹⁴C濃度の時間的空間的変動に関する研究 （Studies on temporal and regional variations of ¹⁴C concentrations in tree rings and atmospheric CO₂）</p>
<p>安田健一郎（日本原子力研究開発機構） 保障措置のための放射線計測システムの開発</p>
第19号(2009年)
<p>石井康雄（日本原子力研究開発機構 地層処分研究開発部門） The Aqueous Chemistry of Element 104 Rutherfordium –Cation exchange behavior of fluoro complexes-</p>

(104 番元素ラザホージウムの溶液化学—フッ化物錯体の陽イオン交換挙動—)
第20号(2009年)
迫田晃弘 (岡山大学大学院保健学研究科) Effects of Some Environmental Factors on Radon Emanation and Leaching from Natural Rocks (天然岩石からのラドンの散逸と浸出に及ぼす環境諸因子の影響)
宮下 直 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門) Separation of Minor Actinoids from Lanthanoids by a Solvent Extraction Technique Using Soft Donor Extractants Containing Sulfur (硫黄を含むソフトドナー抽出剤を用いた溶媒抽出によるランタノイドからマイナーアクチノイドの分離)
吉河 朗 (日本原子力研究開発機構) ボロン膜中に照射された高エネルギー重水素の捕捉および脱捕捉過程の包括的解明
第23号(2011年)
小林大志 (京都大学工学研究科 原子核工学専攻) 有機酸を含む水溶液中におけるジルコニウムおよびトリウムの溶解度に関する研究 Solubility of zirconium and thorium in aqueous solutions containing organic acids
上杉 正樹 (金沢大学大学院自然科学研究科) 環境試料のラジウム、ラドン、放射性鉛及びポロニウムの定量法に関する研究 Studies on Determination of ^{226}Ra , ^{222}Rn , ^{210}Pb and ^{210}Po in Environmental Materials
第24号(2011年)
大江一弘 (日本原子力研究開発機構) Development of microchannel-electrode chip and basic studies for electrochemistry of element 106, seaborgium (106 番元素シーボーギウムの電気化学的研究に向けた電極マイクロチップの開発と基礎研究)
第30号(2014年)
小森有希子 (理化学研究所 仁科加速器研究センター) Development of Liquid Scintillation α /SF Detection System for Aqueous Chemical Studies of Element 106, Seaborgium (106 番元素シーボーギウムの溶液化学的研究に向けた液体シンチレーション α /SF 検出システムの開発)
第32号(2015年)
横北卓也 (日立GE ニュークリア・エナジー株式会社) Solid-Liquid Extraction of Element 104, Rutherfordium, in Aliquat 336/HCl System: Observation of Equilibration of Chemical Reaction for Transactinide Elements (104番元素ラザホージウムのAliquat 336/HCl系での固液抽出: 超アクチノイド元素の化学平衡到達の観測)
小松田沙也加 (一関工業高等専門学校 一般教科自然科学系)

Thermal Behavior of Al and In Impurities Doped in ZnO Studied by Means of Perturbed Angular Correlation Spectroscopy

(摂動角相関法によるZnO に導入された不純物AlとInの熱的挙動の研究)

第34号(2016年)

佐藤志彦 (日本原子力研究開発機構 福島技術開発部門)

Study of relationship between deposition of radioactive materials and radioactive particles in the difficult-to-return zone caused by the Fukushima Dai-ichi Nuclear Power Plant accident

(福島第一原発事故で生じた帰還困難区域における放射性物質の沈着と放射性粒子の関係の研究)

金子政志 (日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究センター)

Benchmark study of density functional theory by using Mössbauer spectroscopic parameters and its application to d-, f-block coordination chemistry

(メスバウアー分光パラメータを用いた密度汎関数法のベンチマーク研究とd, f ブロック錯体化学への応用)

第36号(2017年)

吉田 剛 (高エネルギー加速器研究機構 放射線科学センター)

Study for muonic atom formation and the following muon cascade process - Muon capture experiment for low pressure gases and Development of charge separation system after muonic atom formation -

(ミュオン原子形成とそれに伴うミュオンカスケード過程に関する研究—低圧気体でのミュオン捕獲実験およびミュオン原子形成後の電荷選別システムの開発—)

張 子見 (大阪大学大学院 理学研究科 特任研究員)

Investigation of radioactive material release behavior in the FDNPP accident through distribution of ^{90}Sr , ^{140}Ba and ^{137}Cs in the nuclear reactors and environment

(原子炉内外の ^{90}Sr , ^{140}Ba , ^{137}Cs の分布評価による福島第一原子力発電所事故における放射性物質の放出挙動の解明)

第38号(2018年)

小木曾 了 (大同大学 非常勤講師)

混合原子価鉄三核フッ素置換安息香酸錯体の原子価揺動の ^{57}Fe メスバウアー分光法による研究

(Study of valence fluctuation of mixed-valence trinuclear iron fluorine-substituted benzoate complexes by ^{57}Fe Mössbauer spectroscopy)

第40号(2019年)

重河 優大 (理化学研究所 仁科加速器科学研究センター)

Chemical effects on the internal conversion processes of $^{235\text{m}}\text{U}$ and $^{229\text{m}}\text{Th}$

($^{235\text{m}}\text{U}$ と $^{229\text{m}}\text{Th}$ の内部転換過程に対する化学効果)

小荒井一真 (日本原子力研究開発機構 福島環境安全センター)

Studies on incorporation of ^{90}Sr and ^{137}Cs in hard tissues of cattle and monkey in the Fukushima environment

(福島原発周辺のウシおよびサル硬組織への ^{90}Sr と ^{137}Cs の取り込みの研究)